

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 山本能楽堂	
施 設 名	山本能楽堂	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	12,736	(千円)
公 演 事 業	6,154	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	6,582	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	初心者のための上方伝統 芸能ナイト	7月14日、8月4日、 9月15日、10月13日、 11月17日、12月31日、 1月12日	豊竹呂勢太夫、竹澤宗助、奥村旭 翠、山本章弘、山村友五郎、菊地 まどか、春野恵子、内海英華	目標値	1,120
		山本能楽堂		実績値	1,050
2	とくい能	7月23日、9月21日	山本章弘、喜多雅人、山本麗晃、 上野雄介、浦田親良、福王知登、 梅若基徳、茂山童司	目標値	510
		山本能楽堂		実績値	302
3	船弁慶三体	3月25日	豊竹呂勢太夫、竹澤宗助、山本章 弘、福王知登、喜多雅人、善竹隆 平、旭堂南春、山本博通	目標値	170
		山本能楽堂		実績値	170
4	能×現代演劇	8月19日・20日、2月3日	岡部尚子、金子仁司、山本章弘、 梅若基徳、大熊隆太郎、小坂浩 之、杉浦豊彦、斉藤敦	目標値	680
		山本能楽堂		実績値	523
5	神・男・女・狂・鬼	12月16日	山本章弘、吉井基晴、大西礼久、 水田雄晤、今村一夫、井戸良祐、 前田和子、笹田祐樹	目標値	170
		山本能楽堂		実績値	168
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,650
				実績値	2,213

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	ストリートライブ能	4月1日、9月11日、3月2日、 3月9日	山本章弘、森本哲郎、大西礼久、杉信太郎、吉井基晴、井戸良祐、今村一夫、荒木建作	目標値	5,000
		中大江公園、田辺三菱製薬ビル、万博公園		実績値	4,100
2	文化の伝承 花と芸能	3月9日	山本章弘、梅若基徳、山本麗晃、林大和、斉藤敦、守家由訓、住野泰士	目標値	170
		山本能楽堂		実績値	170
3	能の身体文化と現代舞踊の身体性が拓く可能性 能とノイズム	10月7日	山本章弘、大西礼久、笠田祐樹、上野雄介、山本麗晃、金森穰、井関佐和子、佐々木雅幸	目標値	170
		山本能楽堂		実績値	168
4	アートによる能案内	8月8日	山本章弘、吉井基晴、井戸良祐、笠田祐樹、山本麗晃、斉藤敦、古田知英、森山泰幸、井上敬介	目標値	60
		山本能楽堂		実績値	60
5	能と遊ぼう！	1月5日・13日・19日	前田和子、今村一夫、上野雄介、林大和、森山泰幸	目標値	60
		山本能楽堂		実績値	150
6	高校DE能楽うたい隊	2月2日	守家由訓、古田知英、梅若基徳	目標値	200
		大阪市立咲くやこの花高等学校		実績値	210
7	出前能	3月26日	山本章弘、梅若基徳、守家由訓	目標値	50
		夢パラティース大阪		実績値	88
8	山本能楽堂・インターナショナルデイ	3月8日	二代安達瞳子、小和田さくら子、Jennifer Snowden、山本章弘	目標値	160
		山本能楽堂		実績値	131
10	まっちゃんまちサロン	7月16日、8月4日、9月13日、11月10日	山本章弘	目標値	320
		山本能楽堂		実績値	300
11	能活	4月28日、5月12日、6月16日、7月1日、8月19日、9月9日、10月21日、11月10日、12月15日、1月20日、2月16日、3月16日	林本大、前田和子	目標値	960
		山本能楽堂		実績値	898
12	能活PULS謡	4月28日、5月12日、6月16日、7月1日、8月19日、9月9日、10月21日、11月10日、12月15日、1月20日、2月16日、3月16日	林本大、前田和子	目標値	960
		山本能楽堂		実績値	503
13	小謡塾（謡へのよりみち）	4月27日、5月11日、6月8日、7月6日、8月24日、9月7日、10月12日、11月9日、12月7日、1月18日	林本大、前田和子	目標値	500
		青山ビル		実績値	236
平成30年度の目標値、実績値				目標値	8,610
				実績値	7,014

## 【妥当性】

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当能楽堂では、次の3つの社会的役割（ミッション）を掲げ事業を実施した。</p> <p><b>1、ユネスコ世界無形遺産の「能楽の継承」</b></p> <p><b>2、時代に生きる「芸術創造の場」</b></p> <p><b>3、芸能の都・大阪としての「地域の魅力発信」</b></p> <p>そして、その社会的役割を遂行するため、劇場の果たすべき役割として①人財育成 ②芸術創造の場 ③地域コミュニティの育成 ④地域の文化振興と地域間連携の4つの方向性を考え、事業を実施した。現代社会が抱える様々な問題、例えば、少子高齢化社会の問題、地域社会の変容、消費社会の成熟や個人の意識や行動の変化、国際化・グローバル化社会に向けての日本の文化・芸術が抱える問題などについても考察し、できる限り事業の中に、その解決策や未来に向けたの指針となるような取り組みを盛り込んで実施した。</p> <p>また、当劇場は大阪の中心地である官庁街に残る歴史的建造物であり、ユネスコ世界無形遺産の能楽の継承団体である。その利点や地域の特性を活かし、これまでに13年間、大阪商工会議所、大阪市、大阪観光局と協働で、能だけでなく、文楽、落語、講談、浪曲、女道楽、お座敷遊び等を貴重な文化遺産と捉え直し、その魅力を発信する事で、大阪の都市格を上げ、文化の力で地域振興に貢献し、観光集客に活かす活動をおこなってきた。この公演によりこれまでほとんどなかった、ジャンルの異なる伝統芸能の演者同士の交流が生まれ、新たな関係性を構築し、新たな企画が生まれ、上方伝統芸能全体の活性化に繋がりと、芸術の創造の場としての大きな役割を果たしてきたと自負している。</p> <p>これらの実績をもとに、平成30年度は、目まぐるしく変化する社会情勢の中で、社会が抱える問題に対して、伝統芸能が成し得る可能性や社会との新たな関係性の構築、社会包摂に向けた取組も視野に入れ、事業を実施した。おそらく、伝統芸能全般の劇場の中では、これまでそのような視点によって事業はなされておらず、極めて先駆的な取り組みであり、従来実施してきた伝統芸能の普及・啓発活動に加え、未来に向けた可能性を見出す事業を実施することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>大阪は太閤秀吉が、それまで「見るだけ」であった能に「自ら舞う楽しみ」を見出して以来、「嗜む文化」が形成され、それは同時に分厚い観客層となつて、芸能文化の発展を底支えし、大阪では他の都市では類を見る事の出来ない、豊かで多彩な芸能が生まれ育まれてきた。能、狂言、文楽、上方歌舞伎、上方落語、上方講談、浪曲などの芸能が現在まで伝えられ、たしなまれてきた大阪は、「芸能の都」ということができる。しかし、昨今、その歴史的に育まれてきた文化的な側面は薄れ、「下品で訪れたくないまち」「危険で文化のかけらもないまち」といったステレオタイプ化されたイメージばかりが先行する。そこで、当劇場では、約12年前より、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光局と協働で、これらの上方伝統芸能を貴重な地域資源と捉え直し、大阪に伝えられてきた「本物の伝統芸能」を観光と結びつけ、地域活性化につなげることができるよう取り組んできた。そのため、以下の目標を掲げ事業を実施した。</p> <p><b>（目標）</b></p> <p>①地域の文化遺産である上方伝統芸能の文化拠点として、公演を通して情報発信を行い、上方伝統芸能の振興と継承につなげる。</p> <p>②上方伝統芸能を観光に活かすことで、地域の発展を支える。</p> <p>③敷居が高いと敬遠されがちな伝統芸能を、現代人にも魅力的な切り口や方法で伝えることで、鑑賞者やファン層の裾野を広げる。</p> <p>④上方伝統芸能の鑑賞者を増やすことで、上方伝統芸能全体の活性化を行い、創造活動の幅を広げる。</p> <p>⑤「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこなうことで、地域住民のシビックプライドを構築する。</p> <p>言うまでもなく能楽堂は、能・狂言の専用舞台であるが、弊財団では「開かれた能楽堂」をキャッチフレーズに、様々な文化・芸術の交流の場として、地域活性化を目的に事業を行っている。また、今や全国的にも珍しい木造の伝統的な能楽堂の空間を活かし、どの事業も大阪に伝わる上方伝統芸能の魅力が発信され、普及・啓発につながるよう事業を実施している。さらに、昨今商業目的に演じられる花魁や忍者ショーのようなものではなく、「一流の演者による本物の伝統芸能」を上演する事をモットーにしており、地域住民が質の高い地域に根差した芸能を楽しめる環境作りに取り組んでいる。そしてその延長として、観光集客やインバウンドの促進を行い、まちづくりにもその視点を活かし事業を実施した。</p>

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

平成30年度は以下の目標と指針を掲げ事業を実施した。

#### (目標)

- 1、豊臣秀吉以来大阪で育まれた豊かな伝統芸能により、地域の文化拠点として常に活力ある社会を構築する
- 2、秀吉が愛した能の魅力と歴史を広く周知することで、大阪人としてのシビックプライドを構築し、地域コミュニティの創造と再生を通じて地域の発展を支える
- 3、昨今、特に海外旅行者の数が増える大阪で、外国人の視点を取り入れた普及啓発事業を実施する事で、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する
- 4、大阪が本来持っていた文化の力を再構築し、大阪における能楽をはじめとする伝統芸能の振興を図る。
- 5、誰もが参加しやすい事業を細分化し多数実施することで、文化芸術の鑑賞や文化芸術に関わる人口を増やし、文化芸術による豊かな社会を目指す。
- 6、伝統芸能の持つ「伝統」は大切にしながらも、時代に即した普及啓発を実施する事で、伝統芸能を次世代に継承し、持続可能な創造活動を行う。
- 7、「本物の伝統芸能」により地域活性化をおこなうことで、地域住民の意識を変革し、「誇り」を再構築する。

#### (指針)

- ◆アンケートの回収率が80%以上になるよう公演内容の充実をはかり、なおかつその80%以上の方から「満足した」「楽しかった」と回答を得ること。
- ◆参加者が大阪市内だけでなく、広域にまたがること。
- ◆外国人観光客の全体の観客に占める割合が20%を超えること。
- ◆外国人観光客からのアンケートで80%以上の満足度を獲得すること。
- ◆参加者の50%以上がリピーターとなった。

#### (結果)

- ◆アンケートの回収率が52%であったが、その80%以上の方から「満足した」「楽しかった」と回答を得た。
- ◆参加者が大阪市内だけでなく、関西一円ならびに東京や名古屋等全国からの広域にまたがった。
- ◆外国人観光客の全体の観客に占める割合は18%であった。
- ◆外国人観光客からのアンケートで80%以上の満足度を獲得した。
- ◆参加者の中に占めるリピーターの割合は約60%となった。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

平成30年度は、18事業（5公演事業、13普及事業/実施回数53回）を実施予定であったが、「スラボフペトコが語る日本の伝統芸能」は、在ブルガリア共和国のスラボフ氏が、日本に来日する機会がなく、講座を実施する事が出来なかった。また、「神男女狂鬼」公演も、初めての企画内容であったため公演内容についての打ち合わせが難航し確定するまで時間がかかりすぎたため、アウトプットまでの時間が約1月程度しかとれなかった。そのため、新聞紙面での掲載が小さい内容あるいは、時間的に間に合わず掲載されなかったため、新聞記者の複数の方より、大変良い企画であるのにアウトプットの期間が短すぎて大変残念でありもったいないとお声を頂く結果になってしまった。次年度はこのようなことがないよう、数か月前からアウトプットを始める予定である。

#### アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業、普及啓発事業ともに、当初の事業費より少ない事業費となった。これは、上記の「スラボフペトコが語る日本の伝統芸能」公演を中止したことで、他の公演の実施回数が当初より減少したことが大きい。当初宣伝費を多く見込んでいたが、宣伝費をあまり使わなかったことが理由として考えられる。今後は、広告宣伝の戦略を事前にきちんとたて、計画的に宣伝をおこなうか、あるいは、もっとSNSやインターネットを駆使し、少ない経費で効果のある広告宣伝を考え、計画的に実施していきたい。

また、事業期間は4月から3月に及び、多様な芸能を様々な角度から取り上げ、年間を通して18事業を53回実施し、能をはじめとする上方伝統芸能の魅力を広く周知し、活性化を行うことができた。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【視点1】

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮するための資源

##### （1）ミッション

能・狂言はもちろん、筑前琵琶、文楽（太夫、三味線、人形遣い）、上方舞、落語、講談、浪曲、女道楽、お座敷遊び、地歌・長唄等の演奏者、神楽、奇術、活動写真、声明などの伝統芸能に加え現代アート、現代演劇、ブレイクダンス、デザイナー、人形劇、華道家、茶道、着付、朗読家、クラシックの音楽家など年間約300人のジャンルの異なる上方伝統芸能の演者が出演し、交流を深め、新たな芸術の創造の場ならびに情報発信の場として機能し、社会から多くの期待を集めている。

##### （2）劇場・音楽堂を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在

財団の代表理事であり観世流能楽師である山本章弘が運営責任者であるが、代表理事に就任した平成18年以来、山本能楽堂は飛躍的な進歩を遂げた。それまでは、一部の限られた能楽愛好者のための能楽堂であったのを、「開かれた能楽堂」をコンセプトに多様な人々が行き交う芸術創造の場へと変換した。これらの実績により数多くの賞を受賞している。また、大阪における文化振興を担う役割も年々大きくなり、新聞やテレビ・ラジオ等もマスコミでも取り上げられることが多い。2025年の万博誘致のDVDでも映像で協力を行った。

近年は大学からのオファーも多く、京都造形芸術大学で客員教授をつとめるなど、これまでに行ってきた小、中、高、特別支援学校での能の継承だけでなく、大学からも招かれている。

さらに、2010年から開始した海外公演は毎年継続して実施しており、ヨーロッパ最大の演劇祭とされるルーマニアのシビウ国際演劇祭からは4年連続で招聘を受け、さらに首都ブカレストの演演劇祭からも招かれるなど、その活動は世界に広がっている。

##### （3）専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

◆能楽協会に所属する能楽師、文楽協会に所属する技芸員、上方落語協会に所属する落語家など、大阪を中心に活躍する上方伝統芸能の演者と幅広い連携関係を構築している。

◆代表理事の山本章弘が京都造形芸術大学の客員教授として基礎美術学科の能楽の教鞭をとっているほか、アートマネジメント学科から毎年インターンを受け入れている。

◆大阪府、大阪市、大阪商工会議所、大阪観光局と連携を行い事業を実施している。

##### （建築設備等）

山本能楽堂は1927年に創設された大阪で最も古い能楽堂であり、90年以上大阪における文化振興の役割を継続して担ってきた。定期公演である「たにまち能（旧山本定期能）」は昭和25年以来継続して開催している伝統的な能の公演である。90年以上継続して能の普及と啓発に携わってきた歴史を活かし、近年は、大阪の貴重な地域遺産である上方伝統芸能全体の発信基地ならびに普及・啓発施設としての大きな役割を担っている。伝統芸能はもともと現在のような大きなホールではなく、芝居小屋で演じられてきた。客席と舞台の距離が近く、演者の息づかいや汗が間近で感じられる空間で見てこそ、伝統芸能の良さやその表現方法や内容について理解をお客様に深めて頂くことができる。大阪は、1920年に大阪大空襲で町全体が焼けており、伝統的な木造建築はほとんど残っていない。その中で、山本能楽堂は貴重な存在であり、その機能を最大限に発揮し上方伝統芸能の普及・啓発につとめることができる。同時に、最新のテクノロジーであるカラーLED照明を導入する等先端技術と能楽との融合にも取り組んでいる。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

#### 【視点2】

◆地域の文化拠点としての機能を最大限発揮するために

（1）公演の企画内容、作品の芸術性の創造性、新規性、先導性等

①上方伝統芸能の他ジャンルの演目をオムニバスに定期的に、10年以上継続して公演を行っている事業は他にはない。また、事業を開始した10年前には公演に対する批判的な意見もあったが、現在では同様の活動が全国に広がっており、先導してきた自負がある。また、行政からも同様の公演の依頼を受けるようになった。

②事業を続ける中で、新たな視点から芸術性に踏み込んだ取り組みが創造され、特に「船弁慶三体」公演は高い評価を受け、大阪城の新しい劇場のオープニングを飾る企画となった。

③「神男女狂鬼」公演は、能の五番立ての歴史とLED照明演出による日中の光の移ろいを組み合わせた芸術性、創造性、新規性の高い公演であり、初心者ならびに外国人も理解しやすく、能楽の次代への普及を見据えた極めて先導性の高い事業である。

（2）普及啓発の企画内容の創造性、新規性、先導性等

①能の普及啓発のために公共空間で不特定多数の方に向けておこなう「ストリートライブ能」の活動は15年以上継続して実施しておりこれまでに大阪市内の100カ所以上で公演を重ねてきた。本事業も15年前は批判的な意見もあったが、昨今では東京、京都、福岡など他地域でも同様の取組があり、先導的な事業であったと振り返っている。

②能の普及啓発の体験講座として様々な切り口の独自の観点から4種類の事業を38回、こども向けに3事業を5回実施しているが全国的に見てもこれ程までに能の普及啓発事業を実施している団体はあまりなく、先導性が高い。

③関西における最高峰の華道家、世界的に評価の高いコンテンポラリーダンスのノイズム等、他ジャンルの優れた芸術家の視点と能楽を組み合わせコラボレーションを行うことで、芸術性、新規性の高い世界を開拓し、お互いの芸術に相乗効果をもたらしてきた。

④社会包摂の視点から、特別介護老人ホームで公演を実施したが、おそらく能の世界では初めての取組であり先導性の高い事業である。

#### 【視点3】

ステークホルダーの期待（要求）や地域のニーズに対し、自らのもつ技術、人材、情報（ノウハウ、アイデア）等の資源を投入し、応えているか。

①大阪府・大阪市ほか経済団体が主催する「大阪文化フェスティバル」が2年前に開始し、2018年10月の一月間開催されたが、これまでの上方伝統芸能の振興とインバウンドの取り組みが評価され、関西国際空港が台風21号により大きな被害を受けたことから、関西が元気であることを文化の力で海外に発信するため、関西空港で「Welcome to Osaka: Japan」公演を実施し、高い評価を得た。当財団の持つ、公演内容の企画やアイデア、多言語対応のノウハウ、舞台設営のノウハウ等を地域のために活用した好事例となった。

②2019年2月に大坂城に新しくオープンした「クールジャパンパーク大阪SSホール」の柿落し公演の依頼を受け、公演内容の企画やアイデア、コラボレーション、多言語対応のノウハウ、舞台設営のノウハウ等を活用し、受託した。

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### 【視点】

事業終了後も、持続的に発展することができる劇場・音楽堂等の組織の構築、強化、維持のための取組を行っているか。

#### （正規雇用率）

約15年前に財団法人化した時は、能楽師や家族が事務作業を行っていたが、現在正規雇用者を3名雇用している。その他、非正規雇用者8名で事務を行っている。

#### （組織内部でのキャリアパスの取組）

職員が、芸術団体や商工会議所、NPO団体、文化庁等が主催のセミナーや講習会、研修会ならびに勉強会に積極的に参加している。

#### （劇場・音楽堂間のネットワークの形成）

「むりやり塚筋演劇祭」に参加し、関西にある劇場間のネットワークに参加している。大阪府下の学校に芸術家を派遣する事業により、古典芸能以外のブレイクダンスやいけばな、茶道、香道、着付などの生活文化の芸術関係者との幅広いネットワークが生まれた。滋賀県文化振興財団や茅ヶ崎文化振興財団、茨木市文化振興財団などから公演を受託。

#### （教育機関とのネットワークの形成）

京都造形芸術大学、相愛大学、大阪観光大学の学生達がフィールドワークに訪れ、公演に参加する等ネットワークを形成している。また、関西大学の能楽部を指導し、後継者の育成につとめている。大阪市内の小学校、高等学校の生徒を受け入れている。

#### （ボランティアの育成、スキル向上の取組）

公演時にはボランティアスタッフに依頼し、会場設営、会場運営、撤去の作業を手伝ってもらっている。これまでに約15年間、ボランティアスタッフのネットワークを形成し、公演ごとにボランティアスタッフに依頼し事業を実施している。年に数回、交流会を実施し、スキルの向上に取り組んでいる。

#### （安定的な収益基盤と財源確保の取組）

年間を通じて後援会の入会の勧誘ならびに寄付者・支援者への依頼、他の助成金への申請を継続的に実施し、安定的な収益基盤をつくり財源確保できるよう取り組んでいる。

#### （海外との連携/将来の人事戦略）

大阪大学大学院に能の研究のため留学してきた一人のブルガリア人ペトコ氏との出会いから毎年海外公演を実施し、日本と東ヨーロッパを中心とした国際文化交流を継続して実施している。ペトコ氏には海外公演のコーディネーターだけではなく、アプリ開発、HPの制作、インバウンドに向けた資料の制作などを依頼しているが、通信手段が格段に発達したため、日本とブルガリアとの距離を超えて、様々な取り組みを共同で行っている。例えば公演時に掲示する字幕は、ペトコ氏が制作した「字幕アプリ」を使って掲示しているが、その英語翻訳もペトコ氏が担当している。ペトコ氏とは今後も様々な事業や企画と一緒に開発していく予定である。今後、将来的にこのような取り組みが増えることにより、能楽や日本の伝統芸能の魅力が世界に向けて発信される一助にもなるのではないかと考える。